

新時代の町づくり

全町的な広がりを

議長 柴崎 精久



輝かしい新春を、町民各位ご家族皆様でお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、いくつかの出来事がありました。

IT産業と金融がからむ企業事件、国内政治では小泉内閣から安倍内閣へとバトンタッチし、いわゆる構造改革路線から、美しい日本を追求する日本のリーダーが変わりました。

続いて、教育の根底をゆるがす学校教育現場での「いじめ」問題。共通事項として見

る児童生徒の命に対する尊さの軽薄さ、多様化する社会の中で多くの出来事・事件が発生しました。

日本経済は、不況の中から抜けだし景気拡大期は戦後最長の58カ月となっております。しかし、業績が好調なのは大企業などに限られ、日本中が活気にあふれた高度成長期とは全く違う状況であります。

以上のような国内の状況の中、吉岡町はどうであったか。上毛大橋開通以後、吉岡バイパス沿線の開発に伴い、大型店の進出が進み、人口も増加

の一途をたどっております。当町の悲願でありました駒寄インターは、スマートインターとして社会実験を実施し昨年の10月1日より国土交通省より連結許可が出されました。今後は全車両対象としたスマートインターを目指し道路整備を始めとして周辺地域の更なる活性化を考え強力に推進する必要があると考えております。

上野田ふれあい公園も完成し、県道高崎渋川バイパスも用地交渉を進めております。国直轄事業である前橋渋川バイパスもアクセスする漆原総社線の道路整備も順調に進んでおります。併わせて前橋渋川バイパスに接続する道の駅構想も進んでおります。

また、永く町民に親しまれてきたたりばとピア吉岡温泉に対するご理解をいただき経営赤字に対する諸政策を実行させていただきました。今後ともご理解ご協力の程お

願いする所存です。

また、少子高齢化が進む中で、教育・民生・福祉の分野も後退のないよう進めてきましたが足どりを遅らす訳にはまいりません。

では今後、行財政の厳しさが増大する中で、どう町づくりを進めるか、行政・議会に課せられた大きな課題であろうと受けとめております。地方分権の進行、行政を取り巻く環境の変化が急速に進んでおります。

しかしながら、現在の町が急速に進む中で自立するわが町を確立するためには、行政の対応ばかりではなく、住民の自発的な町づくりの意識の高揚や自己決定、自己責任に基づく新時代の町づくりへの参加が不可欠であり、全町的な広がりある取り組みが求められております。

現在進めている吉岡町行政改革大綱の中で自治会制度導入も実施に向けて地区座談会

を行い理解を得ているところであります。

今後の議会制度も改革され、これまでの執行機関のチェック機能の役割だけでなく、地域住民の代表者として地域要望を的確に政策に反映する政策立案能力が求められる時代に入ります。今年は地方統一選挙の年であり、今後ますます議会の重要度は増し、それとともに議会の真価も問われてまいります。

民主主義の基盤に立脚し今後の町づくりを強力に推進していく所存であります。今年が町民各位ご家族にとりまして幸せな年でありますようご祈念申し上げ年頭の挨拶といたします。



未来へと羽ばたく町に



吉岡町長 小林 稔彦

暫定供用開始となれば、町道漆原総社線・漆原南原線がアクセスし、道の駅構想も現実性を帯びてくるはずです。

待ちかねる高浜バイパスも、道路用地の確保が進み工事へと事業の促進が望まれます。こうして道路などの都市生活基盤が整い始め、新たな住宅地の造成も多くなりました。

住みやすさを最優先に、自然環境との調和のとれた豊かな町づくりを目指し町の可能性が広がっています。

昨年も吉岡中駅伝部の活躍は顕著でした。男子は県大会2連覇で、4度目の優勝。女子も第4位に入賞する大健闘で「襷」を立派につないでくれました。男子は関東6位、全国大会18位と奮闘し母校の伝統と名誉を更に高めてくれました。

小学生は、町のイベントには欠かせぬサポーター役として定着し、成人式の案内や進行係を務め敬老福祉大会では、

作文を発表しお年寄りを励ましてくれました。少子高齢化は町も重要施策として取り組み、子育て支援センターの開設、学童保育所の新築。老人施策は、高齢者の健康寿命を延ばす事業、一人暮らし老人へのサービス、在宅介護の支援など福祉の向上に努めました。

昨年も特筆すべきは、子どもたちの頑張りで、町の次代を担う若者への期待と信頼はそのまま町の未来像を描き出します。「住んでみたい町、住んでよかった町」を目指して自立した活力ある町づくりを進めてきた吉岡町にとっていよいよ真価を発揮する時代が到来したといえるでしょう。行政・議会・住民が提携した協働の町づくりに活路を求め自立への確かな歩みを刻むつもりです。

年頭にあたりご家族みなさまのご多幸を心よりお祈りいたします。

よしおかの台地に注ぐ新陽の光が、鮮やかに生き生きと感じられ、町民皆さんにとって希望と幸せ多い年でありますよう祈りました。

昨年は、建設ラッシュに沸き活気に満ちた年でした。最大の話題は、駒寄スマートインターチェンジの本格的運用が決定したこと。

22カ月に及ぶ社会実験が成功し、昨年10月1日より24時間化の常設となり町民挙げての思いが成し遂げられました。関越自動車道への直接のアクセスは、交通利便性の向上と、

地域活性化が一段と促進されIC周辺の開発は新しい局面を迎えたといえます。

長年の住民の皆さんの悲願でした上野田ふれあい公園も8月にオープンしました。敷地約2万3千平方メートルに、散歩やジョギングのお年寄りや親子連れの姿が賑いを見せています。

漆原の緑地運動公園の一角を通過する前浜バイパスは、利根川架橋の橋脚が立ち並び、道路はカルバートボックスや高架線の工事が進み、完成ま

謹賀新年 2007